

Back Number

本論文は

# 世界経済評論 2021 年11/12月号

(2021 年 11 月発行)

掲載の記事です



## 世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読  
期間中

デジタル版バックナンバー 読み放題!!



世界経済評論 定期購読



0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。  
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp

雑誌のオンライン書店

## Sylvia Forges-Ryan と連歌、俳句



佐藤 紘彰

昨年霜月、Sylvia Forges-Ryan という方から手紙があった。いわく、「おそらく私を覚えておられないでしょうが、私は1991年から1993年までFrogpondの編集者でした……。私は1980年代と1990年代、コロンビアでのあなたやその他のHSA会員との会合、その後あなたのお招きであなたのアパートで集まったのを懐かしく思い出します」

手紙の中の、「HSA」はHaiku Society of America すなわちアメリカ俳句協会、「Frogpond」は「古池や」に因むHSAの機関紙。「コロンビア」はコロンビア大学のこと。HSAは、1970年代の初めにJapan Societyが国連の近くに新館を建てると、以後その四季ごとの会合をそこで持っていたが、後に料金をとるようになったので、しばらくコロンビア大学で会合を持っていた。

ぼくは1979年から1981年の3年間、HSAの会長だった。

## 文学遺産管理

Forges-Ryanさんがおっしゃる通り、ぼくはこの方のことを覚えていなかった。続けて言われる。「私は2012年に亡くなった親友Virginia Brady Youngが文学遺産の管理者に指定してきていましたが、最近、彼女の未発表の原稿の中に彼女とあなたと私による連歌が見つかり、読んでみると面白いので、どこかに発表できないかと思ひまして」と、原稿を添えてきた。

見ると、Before the Windと見出しのついたこの連歌（「三吟」）は、合計36句（「歌仙」）。発句は1989年4月、挙句は1991年1月とある。Forges-Ryanさんによると、Youngさんはコロンビア大学の近くで育ったが、その後ご夫君の大学教授とともに他の地に引越し、この歌仙を作ったところはForges-Ryanさんと同じくコネティ

カットに住んでいたという。

そういえば、YoungさんがHSAの会長だった1984年にくださった手紙が二、三通残っているが、発信地はadobeの際立った美しいサンタ・フェだった。いずれにせよ、ぼくは1968年ここに来て以来マンハッタン以外に住んだことはないで、この連歌は手紙の遣り取りで作った。

初三句は次のようだ。

just before the wind  
piles of brown leaves  
quiet with each other (VBY)

two pinky runts  
root in the yard (HS)

blushing from the steam  
she rises out of  
the Jacuzzi (SFR)

これを五七五に訳すと、「風の前枯葉の山の静かさよ」「ちび豚二匹庭搔回す」「ジャクジーに立ち上がる人恥じりいて」とでもなるだろうか。

ところで、日本でも俳句が世界中で書かれることは知られている。しかし日本の人の多くは連歌が日本以外で作られることを知ったら驚くかもしれない。

アメリカで連歌作りの切っ掛けになったのは、ぼくがHSA会長になった1979年にプリンストン大学のEarl Miner教授がJapanese Linked Poetryを出して連歌を初めて学問的に説明した。ついで1983年、ぼくがOne Hundred Frogs: From Renga to Haiku to Englishを出して、俳句が連歌から発生したことを説明、ぼくが友人と作った連歌を数編出した。

The Haiku Foundation を設立した Jim Kacian 君によると、連歌を広めようとする人たちは今でもアメリカその他に何人かいるようだが、流行っているとはいえないようだ。

### Forges-Ryan さんの俳句

ここで, Forges-Ryan さんの俳句を What Light There Is: Haiku, Senryu, and Tanka (Red Moon Press, 2016) からいくつか見てみよう。

Summer cloudburst

the glee of children  
running into the rain  
土砂降りや  
雨に走り込む  
子の叫び

Back from vacation —

our finicky roses blooming  
better than ever  
休暇帰り  
気紛れな薔薇  
よく咲いて

Rainy afternoon

a floating water lily becomes  
the frog's umbrella  
雨の午後  
浮かぶ睡蓮  
蛙傘

After the fireworks

the dark shawl  
of the night sky  
花火終え  
夜空にかかる  
黒ショール

Evening chill

the sound of the wind

on its way to the sea

夕の冷え  
海に押し出す  
風の声

Winter solstice —

standing side by side  
scarecrow and snowman  
冬至きて  
案山子と並ぶ  
雪達磨

Breaking off the icicle

the taste of metal  
and my childhood  
つらら折って  
金属の味  
子の時代

### 連歌最後の三句

Before the Wind に戻って、最後の三句を見よう。

the girl next door  
in trance again (HS)  
隣の娘  
又うっとり

Chimney smoke

rises to a flower  
in its gauze (VBY)  
煙突の  
煙うっすり  
花となる

lifting into twilight

a skein of snowgeese (SFR)  
日暮れに昇る  
白雁の列

さとう ひろあき 翻訳家, コラムニスト在NY